

大名みえ子です

東海村村松 2401-2

ご相談はお気軽にお寄せください

・ fax 029-284-0761

被爆60周年平和祈念作品 長編アニメ映画

「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」を観て 大名美恵子

太平洋戦争勃発後の1944年、長崎市にある神学校が結核治療病院として生まれ変わった浦上第一病院に赴任した秋月辰一郎医師は、情熱をもって治療にはげんだ。戦況が悪化する中、空襲警報が鳴るたびに患者たちを地下室へ移動させるなど、看護婦や修道士たちとの懸命な治療は患者からも地域からも厚い信頼を得た。

翌年の8月9日、原子爆弾が広島に続いて長崎の町にも投下された。一瞬の閃光の後のすさまじい爆風であらゆるものが吹き飛ばされ、恐ろしいキノコ雲が昇った。浦上第一病院で治療中だった秋月医師たちも吹き飛ばされ、瓦礫の中からやっと外に出ると、一面焼け野原と化していた。必死の救助活動で患者やスタッフはみな無事だった。やがて町から避難してくる人々で病院の前はいっぱいになった。全身やけどを負った人、肉親を失い悲しみにくれる人、崩れ落ちた家の下で息絶えようとする女性から子どもを託された人……。

しかし、病院は骨組ばかりになり大切な医療機器やたくさんの薬品が使えなくなった。僅かばかりの薬もすぐになくなり、病室も薬もない病院で助けを待つ人々を目のあたりに、秋月医師の苦悩ははかりしれない。その後、体がだるくなる、吐き気がする、髪の毛が抜ける、歯ぐきから出血する、紫斑が出るなどで、助かっただけの人たちが次々と亡くなっていった。「原爆は悪魔のような兵器だ!」秋月医師の怒り震える言葉に、思わず肩に力が入った。

9月16日、長崎を襲った枕崎台風。秋月医師

は、吹きさらしの病院で身動きのとれない重病患者を安全な場所として霊安室へ移そうとした。体を持ち上げようとする患者に激痛が走りさわれない。ここで秋月医師は、「あきらめるな! 生きたかったら自分の力で立つんだ!」と考えられないような言葉で患者たちをはげました。力を振りしぼって自力で移動した人、助けられた人など全員がやっとたどり着いた。

この台風は、大きな被害を出すと同時に、倦怠感や、吐き気などを軽くするという思いがけない現象をもたらしたという。まるで放射能に汚れた土砂やゴミを、濁流とともに海へと押し流したかのように。やがて届いた薬は皮肉にもアメリカの物で、当時の日本の物とは比較にならない上質さ。しかしそれさえも、被爆者を救済することはできなかった。そして被爆による苦しみが、この後何十年と続くことになるという深い悲しみを感じたとき、核兵器の恐ろしさ、核兵器と人類は共存できないということ、世界の人々に訴えるのは、やはり私たち日本人のつとめだと確信した。



アンゼラスの鐘は再び浦上天主堂に掛けられ、今も長崎の空に平和の音色を響かせている。秋月医師の底知れない人間愛と、地獄のような

場でも患者の気持ちに寄り添い励ましつづけた姿に、誰しも熱い感動をおぼえたと思う。そ

して何よりも、広島・長崎の悲劇は絶対に繰り返してはならないと心に誓ったのではないか。

[遅ればせながら、5月の主な活動ご報告]

<4月29日、3月議会報告会>



もう少し上手に話せないの・・・？

- <5月1日、産廃焼却施設問題で県庁廃棄物対策課へ議員団、住民の方々とヒアリング
- <5月11日、同問題で、環境政策課、自治会長さんらと話し合い
- <5月15日、那珂市総合福祉センター“ひだまり”へ、健康プラン那珂21の勉強に
- <5月22日、議会総務委員会出席
- <5月25日、同問題で、弁護士に相談に議員団・住民の方々とつくば市へ
- <5月26日、同問題で、環境政策課、住民の方々と話しあい
- <5月27日、教育基本法改悪・医療制度改悪問題等を街頭から訴える>

遠くから手を振ってくれたり、「しみじみがんばれよ」など、声援が。

.....

(注)「しみじみ」とは、「しっかり」の方言です。



【お知らせ】

しんぶん赤旗	日刊紙月2900円
	日曜版月800円

*ご家族みんなで楽しみ、社会の動きがよくわかります。ご購入をおすすめいたします。バックナンバーは、日本共産党茨城北部地区委員会のホームページでお読みいただけます。

<http://www.jcp-netjp/ibahoku/>